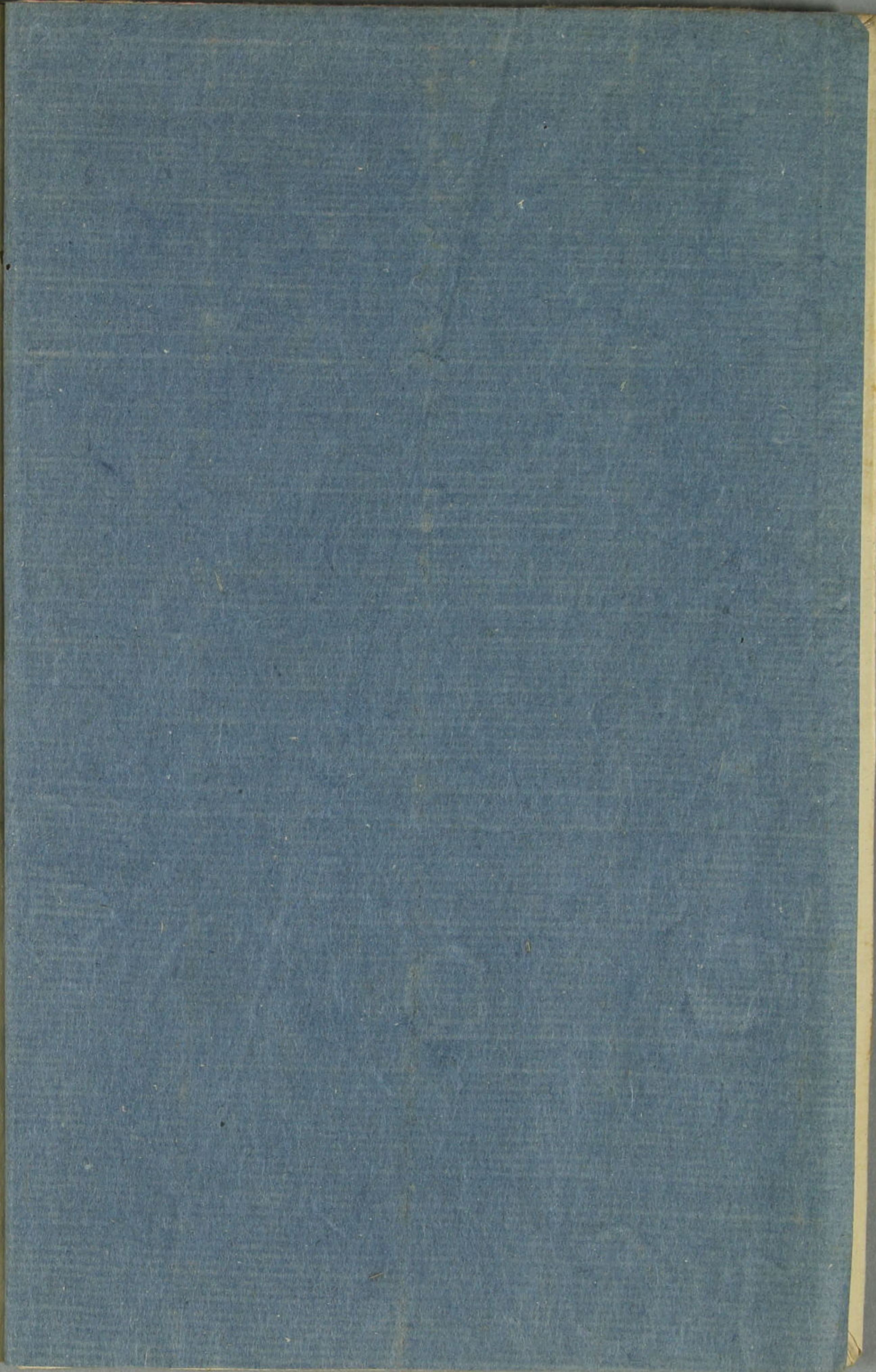
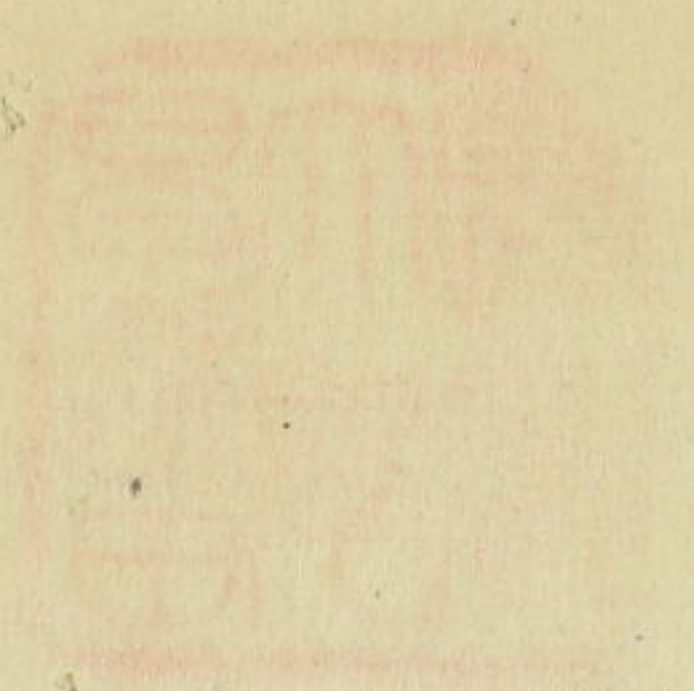


1850

1850

Handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is faint and difficult to decipher but appears to be organized into several lines.





けいさうきんぬ病ありり

解てきききききききき

姑のきききききききき

針姑修きききききき

きききききききききき

花のきききききききき

鳥入のきききききききき

河のきききききききき

経

阿

嚧

経

阿

嚧

経

阿

阿のきききききききき

鳥のきききききききき

草のきききききききき

きききききききききき

鳥のきききききききき

書るきききききききき

阿のきききききききき

んきききききききき

嚧

経

阿

嚧

経

嚧

阿

経

空の雲をいつか通るやうに
おぼろげに

昔の頃よりか
あつたの

柳をよみおぼろげに
あつたの

柳をよみおぼろげに
あつたの

あつたの

あつたの

あつたの

あつたの

晴

晴

晴

晴

晴

晴

晴

晴

あつたの

あつたの

あつたの

あつたの

あつたの

あつたの

晴

晴

晴

晴

晴

晴

深い葦を河よりとりて初にたれど

素吟

わしんちしんちのうらみの跡

梅裡

山の形皆まろくとも聞えり

海

あまのこをばさるは母のせう

吟

さしとる首ちきりのうらみあり

裡

障子たれしうらみおたの吟

海

人まきとて陰影おきゆり

吟

是のうらみはうらみをほ

裡

舟の子よ鳴飽し終るまゝあり

海

男の親よこころあま

吟

娘こそ願ひてはてもよの隣

裡

際しうらみはうらみあり

海

木危の舞うらみはうらみあり

吟

甘きうらみはうらみあり

裡

乃やうとそましくまよふ天をうつき

門徒坊主の匠者も物も

虫跡のまよはるる庭のむらさき

まゆりの水もやまぬぬまぬ

榎葉の道はちかきまよふまよふ

表のまよふまよふ海ぬぬ村

身けぬまよふまよふの網はちか

まよふまよふまよふまよふ健

沙

嚙

程

沙

嚙

沙

程

嚙

松深く一二のまよふ庭のりま

水の中まよふまよふ庭のり

まよふまよふまよふまよふ

まよふまよふまよふまよふ

まよふまよふまよふまよふ

まよふまよふまよふまよふ

まよふまよふまよふまよふ

まよふまよふまよふまよふ

沙

程

嚙

沙

程

嚙

沙

程

川よりの水辺に又あらぬとも

小舟の舟にあらぬとも

行の舟の舟にあらぬとも

舟の舟にあらぬとも

舟の舟にあらぬとも

舟の舟にあらぬとも

水

舟

舟

舟

舟

舟

舟の舟にあらぬとも

舟の舟にあらぬとも

舟の舟にあらぬとも

舟の舟にあらぬとも

舟の舟にあらぬとも

舟の舟にあらぬとも

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

高きも竹藪草年貢のまかり
人々の根をほろむ玉磨
多きをあらはるゝ桐の豆乳
高きも竹藪草年貢のまかり
清き水はやりと取らるゝ
仰りし男ははらしてまかり
比立たの節よせらばまかり

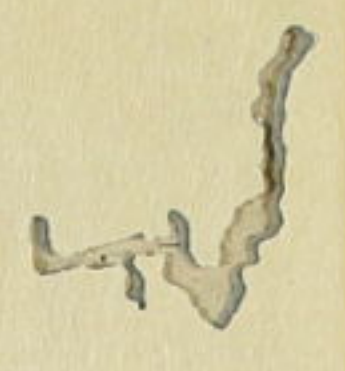
高 河 程 高 河 程 高 河 程 高 河 程

高きも竹藪草年貢のまかり
大まかきも竹藪草年貢のまかり
高きも竹藪草年貢のまかり
高きも竹藪草年貢のまかり
高きも竹藪草年貢のまかり
高きも竹藪草年貢のまかり
高きも竹藪草年貢のまかり
高きも竹藪草年貢のまかり
高きも竹藪草年貢のまかり
高きも竹藪草年貢のまかり

高 河 程 高 河 程 高 河 程 高 河 程 高 河 程

掃くを鯉一本も待たけり
又如房の
古書に記す師の坐席の
掃くを鯉一本も待たけり
又如房の
古書に記す師の坐席の

程 嚙 脚 程 嚙 脚 程 嚙 脚



君入るはあはれいよあるまじき
海老を鯉一本も待たけり
又如房の
古書に記す師の坐席の
掃くを鯉一本も待たけり
又如房の
古書に記す師の坐席の

程 嚙 脚 程 嚙 脚 程 嚙 脚

文久紀元幸阿波

文久紀元幸阿波



